

漁業調査船「とくしま」が表彰されました

海洋生産技術担当 杉本 善彦

Key word ; 漁業調査船「とくしま」, 海洋観測, CTD

水産研究所の漁業調査船「とくしま」は、永年にわたって海洋観測データの通報に寄与した功績を認められ、気象庁長官表彰を受賞しました。(写真 1)。



写真 1. 気象庁長官からの感謝状

「とくしま」による調査

水産研究所では昭和 43 年から本格的な海洋観測を開始し、徳島県の周辺海域で、水温・塩分・海流などの観測のほか、イワシなどの卵や稚仔魚の調査、魚礁調査など漁場の環境や漁業資源に係る様々な調査を行ってきました。

現在の「とくしま」は水産研究所の第 6 代目の調査船として、平成 12 年 2 月に竣工し、水産研究所美波庁舎のある日和佐港を拠点として活動しています(写真 2)。



写真 2. 日和佐港を出港する調査船とくしま

受賞の経緯

この表彰は、6月1日の「気象記念日」に気象関係業務に功績のあった者を気象庁長官が表彰するものです。このうち、水温・海流通報による表彰は平成4年から行われており、都道府県の研究所に所属する調査船では、平成20年の福井県に次いで2番目の受賞です。

今回表彰の対象となったのは、播磨灘、紀伊水道、海部沿岸及び海部沖合の49か所の定点（図1）で毎月実施している表層から底層までの連続した観測です。これは、CTD（写真3）と呼ばれる機器を海面から所定の水深（最大約300m）まで沈めて、その間の水温・塩分・クロロフィル・溶存酸素などのデータを連続して測定し、ケーブルを通して船上で記録するものです。

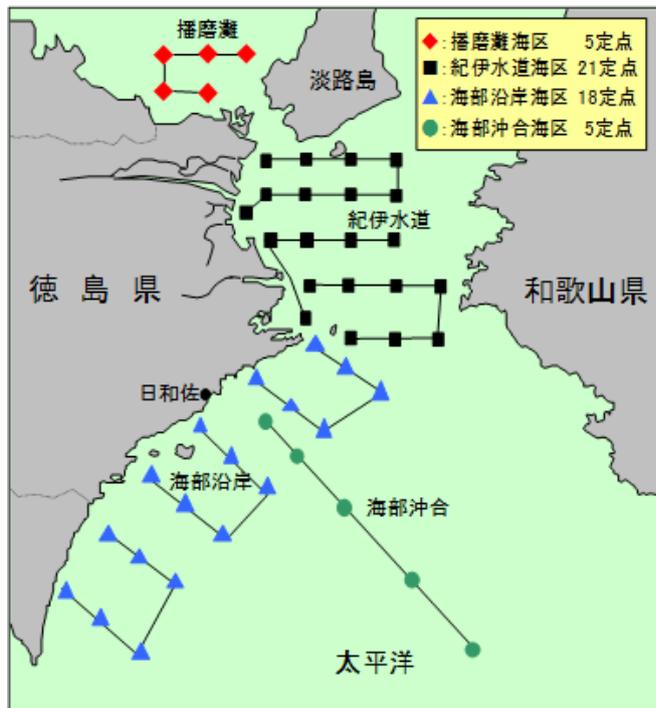


図1. 漁業調査船とくしま調査定点図



写真3. 海洋観測用CTD

こうして得られたデータは、その日のうちに、独立行政法人水産総合研究センターを通じて気象庁に提供されていますが、本県からのデータは水産研究機関からのデータの10%以上を占めており、その貢献度が評価されたものと思われます。

今回、歴代の船員と研究員の永年にわたる海洋観測の実績がこのような形で評価されたことは、大変喜ばしいことであり、「継続することの意義」を再認識させられました。

水産研究所では、今後も県下の漁業者の期待に応えられるよう観測業務を継続していきたいと思っております。